

図 11 骨粗鬆症予防教育に関して提供してほしい情報

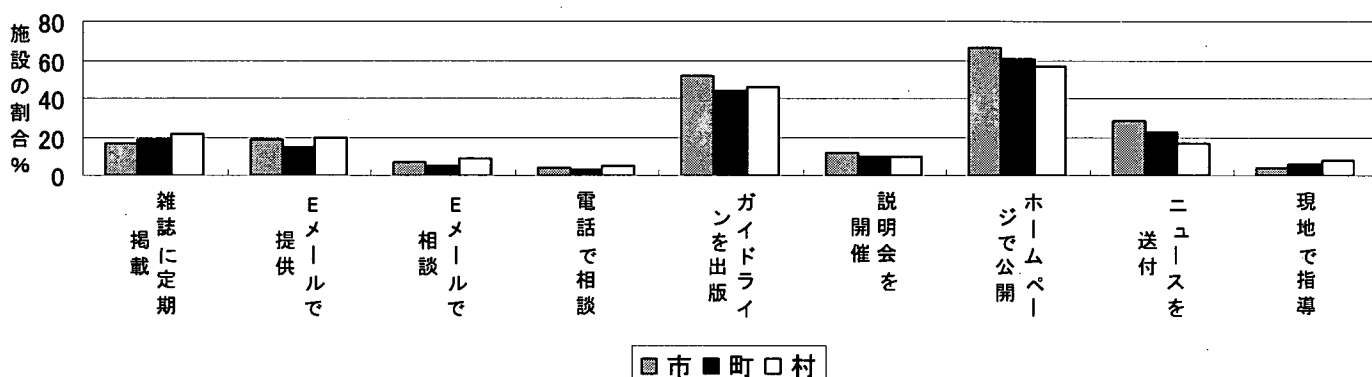


図 12 情報提供の方法

6. 本ガイドラインや他の情報媒体の提供以外で検討すべき事項

ガイドラインや他の情報媒体の提供では対応しきれないが、ガイドラインの有効性を検証する無作為割付比較試験で集約された、地域保健の現場が抱える課題を以下に述べる。

(1) 骨折・骨粗鬆症の予防に関心が低い対象者への働きかけの方法について

「毎年、同じ人が受診している現状である。未受診者に対しての働きかけの方策の希望」(2施設)があった。

「地域住民は、がんと違い緊迫感をもっていない。検診受診や生活改善の動機づけが困難である。それに対する方策」(2施設)。

(2) 効果的なエビデンスコミュニケーションに関連したコメント

ガイドラインをもとに地域保健の現場が対策を実施する際の懸案事項として、「他医療機関との検討する機会が多いため、エビデンスを明確にして有効性があるのであれば、厚生労働省より研究発表等公表して欲しい」「エビデンスはあるだろうけど、通達なら使用できるが、市民に広めてよいのか迷った」などがあつた。担当者の裁量だけでは、地域保健でエビデンスに基づく対策の実施が困難な点があることが伺われる。

これらの課題を踏まえ、本ガイドラインの改訂内容や、他の情報媒体の提供につい

て検討する必要がある。また、ホームページ上での情報公開、eメールで随時相談できるコミュニケーションツールの開発を通じ、市町村間、事業の管轄部署間での情報の共有を図ることは、これらの課題の一助となると思われる。

7. 効果的なエビデンスコミュニケーションのための改訂版ガイドライン作成時検討事項

AGREEによる形式評価、ガイドラインの有効性を検証する無作為割付比較試験の集約結果、全国実態調査結果による骨折・骨粗鬆症対策に関する情報提供についての希望から、抽出された本ガイドライン改訂時の検討事項について、(1)追加もしくは記述内容の検討をすべき項目、(2)検討すべき構成、(3)表記方法、(4)ガイドライン冊子体以外の情報提供の必要性として以下にまとめた。

(1)追加もしくは記述内容の検討をすべき項目

予防対策の有効性に関して追加の検討を行うべき項目として以下が考えられた。

- ①思春期女子のやせ志向に対する対策
- ②ビタミンC、ビタミンAに関する記載項目の見直し

予防対策の勧め方について追加の検討を行うべき事項として以下が考えられた。

- ③運動の項目の充実
- ④推奨する検診受診間隔の設定
- ⑤骨折リスク評価モデルの有効性評価
- ⑥対策のモニター項目の提示
- ⑦推奨する検診受診間隔
- ⑧骨折リスク評価モデルの汎用性の検討
- ⑨個別対策の有効性評価の進め方の記述内容の見直し
- ⑩要指導・要治療対象に対するフォローの仕方
- ⑪地域保健対策全体の中での対策の位置づけ

(2)構成

- ①エビデンスに基づく勧告一覧表の充実
- ②各年代別に予防対策の重点項目に関する

章の設定

③主要文献の抄録表および文献リストを利用しやすい様に検討

(3)表記方法

文章表現が論文的であることは確かで、図式化や表なども用いた形式の検討を含め、この点の改善の検討が必要である。

(4)ガイドライン冊子体以外の情報提供の必要性

①要約的リーフレット

「本ガイドラインをもっと短時間で見やすく、使いやすくしたもの」

②対策マニュアル

内容として、モニター項目の提示、検診結果の対象者への説明の原則（測定結果の解釈）、栄養項目では、必要な食品摂取量を図式化、サプリメントの効果的な使い方、運動指導については、指導のポイント、押さえておくべき事項、転倒対策につながる具体的な運動内容の提示、生活習慣予防対策と一体化した予防対策内容の例示、要医療・要指導対象のフォロー仕方、他の市町村のとりくみ紹介等があげられた。これらは、主に本ガイドラインに関して質問票を用いた訪問調査の回答であるので、対策マニュアルの内容として希望されたコメントではないが、骨折・骨粗鬆症予防対策のマニュアルを作成する際には、今回検討すべき内容と思われる。

③対象者用リーフレット

対象者用リーフレット・一般的な対象者に提示できる「勧告一覧」について検討する必要があると思われる。

8. 効果的なエビデンスコミュニケーション実施法の検討

骨折・骨粗鬆症の予防対策に限らず、必要項目を以下に提案する。

(1)ガイドラインの形式評価を実施し、エビデンスに基づく診療ガイドラインとして推奨される作成経過と様式を具備しているかどうかを明らかにすること。

(2)ガイドラインの構成として、「エビデンスに基づく勧告一覧表」等、勧告を概括で

きる形式を含めること。

(3)ガイドラインの表記方法として、学術的表現に偏りすぎないようにし、簡潔で明解な表現を用いること。

(4)ガイドライン冊子体以外の情報提供法として、要約的リーフレット、対策マニュアル、対象者用リーフレットの作成を検討すること。特に充実した対策マニュアルの必要性は高いと思われる。

(5)双方向のエビデンスコミュニケーションツールとして、最新文献から得られた有効な予防策のまとめ等を閲覧できるホームページ上での情報公開、eメールで随時相談もしくは随時最新情報を授受できる体制の検討。

D. 結論

本ガイドラインは、エビデンスに基づく診療ガイドラインとして推奨される作成経過と様式を具備していることが確認されたが、予防ガイドラインであるため、効率的なエビデンスコミュニケーションの実施には、ガイドラインに加え、要約的リーフレット、対策マニュアル、対象者用リーフレット等のガイドライン以外のエビデンスコミュニケーションツールの充実が不可欠である。また、電子媒体を用いた双方向のエビデンスコミュニケーションツールの充実も必要であると考えられた。

E. 健康危険情報

特記すべき事項はない。

F. 研究発表

未発表

G. 知的財産権の出願・登録状況

特記すべき事項はない。

H. 引用文献

- 1 Guyatt GH, Rennie D. Users' guides to the medical literature. JAMA.1993;270:2096-2097.
- 2 Cochrane Collaboration. Cochrane library.

<http://www.cochrane.org/index.htm>

- 3 伊木雅之. 科学的根拠に基づく健康政策. In: 地域保健活動のための疫学, 日本公衆衛生協会, 2006, PP. 120-125.
- 4 健康・体力づくり事業財団. 健康日本21ホームページ, <http://www.kenkounippon21.gr.jp/>
- 5 伊木雅之. 地域保健におけるエビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防ガイドライン, 日本公衆衛生協会, 2004.
- 6 The AGREE Collaboration. Appraisal of Guidelines for Research & Evaluation (AGREE)Instrument. <http://www.agreecollaboration.org>
- 7 長谷川友紀. 平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金「医療技術総合研究事業(診療ガイドラインの評価に関する研究)」
<http://www.mnc.toho-u.ac.jp/mmc/guideline/AGREE-final.pdf>
- 8 Kanis JA, Oden A, Johnell O, Johansson H, De Laet C, Brown J, Burckhardt P, Cooper C, Christiansen C, Cummings S, Eisman JA, Fujiwara S, Glüer C, Goltzman D, Hans D, Krieg MA, La Croix A, McCloskey E, Mellstrom D, Melton LJ 3rd, Pols H, Reeve J, Sanders K, Schott AM, Silman A, Torgerson D, van Staa T, Watts NB, Yoshimura N. The use of clinical risk factors enhances the performance of BMD in the prediction of hip and osteoporotic fractures in men and women. Osteoporos Int. 2007; 8:1033-46.

2. 平成19年度骨折・骨粗鬆症予防の健康教育・健康相談の企画や実施にあたり、参考にした資料の番号に○をつけ、参考にした資料について「参考にした程度」の該当箇所に○印をつけて下さい。

参考にした資料	参考にした程度		
	1. ほぼ資料どおり	2. 半分程度参考	3. 一部を参考
1 厚生労働省の基準による指導マニュアル	1	2	3
2 各都道府県で作成した指導マニュアル	1	2	3
3 市区町村で実施した調査結果	1	2	3
4 老人保健法による骨粗鬆症予防マニュアル	1	2	3
5 骨粗鬆症寝たきり防止マニュアル	1	2	3
6 健康教育ガイドライン	1	2	3
7 若い女性における骨粗鬆症予防のための健診・指導マニュアル	1	2	3
8 地域保健におけるエビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防ガイドライン	1	2	3
9 インターネットによる情報	1	2	3
10 市販のパンフレット	1	2	3
11 関連書籍・雑誌	1	2	3
12 その他 ()	1	2	3

3. 「地域保健におけるエビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防ガイドライン」の構成について評価してください。

【評価：4：強くあてはまる 3：あてはまる 2：あてはまらない 1：まったくあてはまらない】

項 目	評 価			
①骨折、骨粗鬆症予防対策の対象者が網羅されていた	4	3	2	1
②骨折、骨粗鬆症予防で扱うすべての課題が網羅されていた	4	3	2	1
③検索で得られた文献の総括が参考になった	4	3	2	1
④対策のエビデンスの強さを知る上で、根拠の格付け（I～VI）が参考になった	4	3	2	1
⑤主要文献の抄録表が参考になった	4	3	2	1
⑥各対策項目の最後の勧告が参考になった	4	3	2	1
⑦対策の有効性を知る上で、推奨する強さの格付け（A～D）が参考になった	4	3	2	1
⑧各項目につけられた文献リストが参考になった	4	3	2	1

4-1. 本ガイドラインの13頁～81頁「II. 骨折・骨粗鬆症予防対策のエビデンス」は役に立ちましたか。

【5：大変役に立った 4：役に立った 3：役に立たなかった 2：全く役に立たなかった 1：参考にしなかった】

項 目	評 価				
①体格対策の有効性	5	4	3	2	1
②カルシウム摂取の有効性	5	4	3	2	1
③牛乳・乳製品摂取の有効性	5	4	3	2	1
④ビタミンD摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑤ビタミンK摂取の有効性	5	4	3	2	1

項 目	評 価				
	5	4	3	2	1
⑥ビタミンC摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑦ビタミンA摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑧マグネシウム摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑨イソフラボ摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑩大豆製品摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑪運動習慣形成と維持対策の有効性	5	4	3	2	1
⑫喫煙対策の有効性	5	4	3	2	1
⑬飲酒対策の有効性	5	4	3	2	1
⑭コーヒー・炭酸飲料摂取の有効性	5	4	3	2	1
⑮骨量測定・骨粗鬆症検診の有効性	5	4	3	2	1
⑯転倒対策の有効性	5	4	3	2	1

4-2. 予防対策として、①体格対策の有効性～⑯転倒対策の有効性まで、16項目ありましたが、追加した方がよい事項があれば、お聞かせください。

()

4-3. ①体格対策の有効性～⑯転倒対策の有効性までのまとめ方で「もっとこうの方がよい」、「これはわかりにくい」など、改善すべき点や問題点があれば、お聞かせください。

()

5-1. 本ガイドラインの89頁～115頁「Ⅳ. エビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防対策の進め方」は役に立ちましたか。

【5:大変、役に立った 4:役に立った 3:役に立たなかった 2:全く役に立たなかった 1:参考にしなかった】

項 目	評 価				
	5	4	3	2	1
①骨粗鬆症検診・個別健康教育の進め方	5	4	3	2	1
②課題別集団健康教育の進め方：栄養指導の進め方	5	4	3	2	1
③ " : 運動指導の進め方	5	4	3	2	1
④ " : 転倒予防の進め方	5	4	3	2	1
⑤個別対策の有効性評価の進め方	5	4	3	2	1

5-2. 予防対策の進め方として、骨粗鬆症検診、栄養指導、運動指導、転倒予防について述べていますが、追加した方がよい事項があれば、お聞かせください。

5-3. 予防対策の進め方（骨粗鬆症検診、栄養指導、運動指導、転倒予防等）のまとめ方について、「もっとこうした方がよい」、「これはわかりにくい」など、改善すべき点や問題点があれば、お聞かせください。

6. 本ガイドラインをよりよいものにするために、改善案があれば、お聞かせください。

7. 本ガイドラインを他の市区町村の骨折・骨粗鬆症対策の担当者に推薦しますか。

4 強く推薦する	3 推薦する	2 推薦しない	1 まったく推薦しない
----------	--------	---------	-------------

8. 骨折・骨粗鬆症予防に関する情報を、どのような方法で提供してほしいですか。該当するもの全てに○をつけて下さい。

1 雑誌に定期掲載してほしい	2 eメールにより定期的に提供してほしい
3 eメールで相談にのってほしい	4 電話で相談にのってほしい
5 ガイドラインとして出版してほしい	6 ガイドラインにそったマニュアルを出版してほしい
7 説明会を開催してほしい	8 ホームページで公開してほしい
9 ニュースを送ってほしい	10 現地に来て指導してほしい
11 その他 ()	

9. 骨折・骨粗鬆症予防に関する情報を、どれくらいの頻度で提供してほしいですか。

1	月に1回	2	半年に1回	3	1年に1回	4	随時
5	その他 ()						

10. 骨折・骨粗鬆症予防対策に関わる情報の伝え方について、ご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

11. 最後に、骨折・骨粗鬆症予防対策について、ご意見をお聞かせ下さい。

お忙しいところ、調査にご協力いただき本当にありがとうございました。

本調査票は、後日、訪問調査者が伺った時にご提出ください。

.....

ここからは、訪問調査者が記入いたします。

訪問調査年月日	平成 年 月 日
訪問調査者氏名	
市区町村の担当者名 (了解を得て記入) (前年度と同様の場合は記入不要)	

2. 平成19年度骨折・骨粗鬆症予防の健康教育・健康相談の企画や実施にあたり、参考にした資料の番号に○をつけ、参考にした資料について「参考にした程度」の該当箇所にも○をつけて下さい。

参考にした資料	参考にした程度		
	1. ほぼ資料どおり	2. 半分程度参考	3. 一部を参考
1 厚生労働省の基準による指導マニュアル	1	2	3
2 各都道府県で作成した指導マニュアル	1	2	3
3 市区町村で実施した調査結果	1	2	3
4 老人保健法による骨粗鬆症予防マニュアル	1	2	3
5 骨粗鬆症寝たきり防止マニュアル	1	2	3
6 健康教育ガイドライン	1	2	3
7 若い女性における骨粗鬆症予防のための健診・指導マニュアル	1	2	3
8 地域保健におけるエビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防ガイドライン	1	2	3
9 インターネットによる情報	1	2	3
10 市販のパンフレット	1	2	3
11 関連書籍・雑誌	1	2	3
12 その他 ()	1	2	3

3. 骨折・骨粗鬆症予防に関する情報を、どのような方法で提供してほしいですか。該当するもの全てに○をつけて下さい。

1 雑誌に定期掲載してほしい	2 eメールにより定期的に提供してほしい
3 eメールで相談にのってほしい	4 電話で相談にのってほしい
5 ガイドラインとして出版してほしい	6 ガイドラインにそったマニュアルを出版してほしい
7 説明会を開催してほしい	8 ホームページで公開してほしい
9 ニュースを送ってほしい	10 現地に来て指導してほしい
11 その他 ()	

4. 骨折・骨粗鬆症予防に関する情報を、どれくらいの頻度で提供してほしいですか。

1 月に1回	2 半年に1回	3 1年に1回	4 随時
5 その他 ()			

5. 骨折・骨粗鬆症予防対策に関わる情報の伝え方について、ご意見・ご要望をお聞かせ下さい。

6. 最後に、骨折・骨粗鬆症予防対策について、ご意見をお聞かせ下さい。

()

お忙しいところ、調査にご協力いただき本当にありがとうございました。

本調査票は、後日、訪問調査者が伺った時にご提出ください。

.....

ここからは、訪問調査者が記入いたします。

訪問調査年月日	平成 年 月 日
訪問調査者氏名	
市区町村の担当者名 (了解を得て記入) (前年度と同様の場合は記入不要)	

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

1. 論文発表

小松美砂、梶田悦子、玉置淳子、中谷芳美、由良晶子、伊木雅之. 全国市区町村におけるエビデンスに基づく骨粗鬆症予防対策の実施状況と関連要因. 民族衛生 2008 (in press)

2. 学会発表

国際会議発表

M. Iki, Y. Nakatani, M. Komatsu, J. Tamaki, E. Kajita. A Randomized Controlled Assessment for Effectiveness of an Evidence-based Guideline for Osteoporosis and Osteoporotic Fracture Prevention: Design and Pre-intervention Assessment. The 29th Annual Meeting of the American Society of Bone and Mineral Research. Sep 16-20, 2007. Honolulu, Hawaii, USA.

国内学会発表

梶田悦子、小松美砂、玉置淳子、中谷芳美、由良晶子、伊木雅之. エビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防対策（1報）全国市町村の骨粗鬆症対策の現状. 第66回日本公衆衛生学会、愛媛、2007.

中谷芳美、梶田悦子、小松美砂、武内さやか、玉置淳子、伊木雅之. エビデンスに基づく骨折・骨粗鬆症予防対策（2報）エビデンス準拠度の程度と関連要因. 第66回日本公衆衛生学会、愛媛、2007.